

VI 参考資料

目 次

VI 参考資料	
1 先進事例・参考事例（整備事例）	104
(1) 国内事例[東京都内]	104
(2) 国内事例[その他]	158
(3) 海外事例	185
2 先進事例・参考事例（整備後の取組事例）	202
3 関係団体等のヒアリング結果概要	225
4 用語	227
5 関係団体等	229
6 関係法令・基準等	230

1 先進事例・参考事例（整備事例）

(1) 国内事例 [東京都内]

国内の先進事例・参考事例として、以下の事例の概要を紹介する。

表VI-1-1 国内の先進事例・参考事例

NO	公園名称	広場名称等	公園種別	公園面積	広場面積	特色
1)	都立砧公園	みんなのひろば	広域公園	約39.2ha	約4,000㎡	都として、本格的に整備した第1号。
2)	都立府中の森公園	にじいろ広場	総合公園	約17.1ha	約4,000㎡ (図測)	砧公園に次いで令和3年度に整備。
3)	国営昭和記念公園	わんぱくゆうぐ	国営公園	約165.3ha	約4,000㎡ (図測)	先駆的な事例。平成13年度に整備。
4)	練馬区立豊玉公園	— (通称タコ公園)	街区公園	約2,100㎡	—	当初からユニバーサルデザインに基づき設計。平成21年に整備。
5)	世田谷区立二子玉川公園	遊具の広場	地区公園	約6.3ha	約750㎡	平成24年度に整備。砂場、水遊び場などにユニバーサルデザイン。
6)	豊島区立としまキッズパーク	—	街区公園	約1,000㎡	—	令和2年度に整備。ブランコや砂場などにユニバーサルデザイン。
7)	シンボルプロムナード公園	インクルーシブ・プレイグラウンド(期間限定)	海上公園	約29.4ha	約4,500㎡	一定期間、公園に遊具を設置。遊び場の検証を行った。
8)	都立舎人公園	冒険の丘	総合公園	約63.1ha	約1.0ha	歴史をモチーフとして整備
9)	品川区立大井坂下公園	—	街区公園	約2,239㎡	—	区内の小学3年生～4年生を対象としてワークショップを実施した結果に基づき整備 ※NO.10に関連事項あり

NO	公園名称	広場名称等	公園種別	公園面積	広場面積	特色
10)	品川区の取組	—	—	令和3年度に、最初の改修公園として大井坂下公園（街区公園）を整備		こどもたちのアイデアでユニバーサルデザイン公園を実現する取組。
11)	豊島区立南長崎はらっぱ公園	—	街区公園	約5,734㎡	—	計画の段階から地域の組織が連携をとりながら、ワークショップでイメージを積み上げ整備。
12)	渋谷区立恵比寿南二公園	— (通称ふた公園)	街区公園	約1,890㎡	約600㎡	周辺住民や利用者の方々と約4年間意見交換を重ねてリニューアル。
13)	都立練馬城址公園	遊具広場 (花のふれあいゾーン内)	総合公園	約3.2ha (当初開園区域)	約1,200㎡ (図測)	どんぐりを使って遊べる特色ある複合遊具を設置。
14)	日野市立日野中央公園	インクルーシブ遊具広場	近隣公園	約2.3ha	約230㎡	整備前から整備後まで一貫したワークショップを重ね整備された。
15)	武蔵野市立中央高架下公園	なかよしひろば	都市公園	約2800㎡ (全体)	約830㎡ (図測)	高架下という特殊な場所にユニバーサルデザイン遊具を多種設置。

1) 都立砧公園 みんなのひろば



約 4,000 m²のスペースに、ユニバーサルデザインに配慮した遊具が多数配置されている。

■位置図

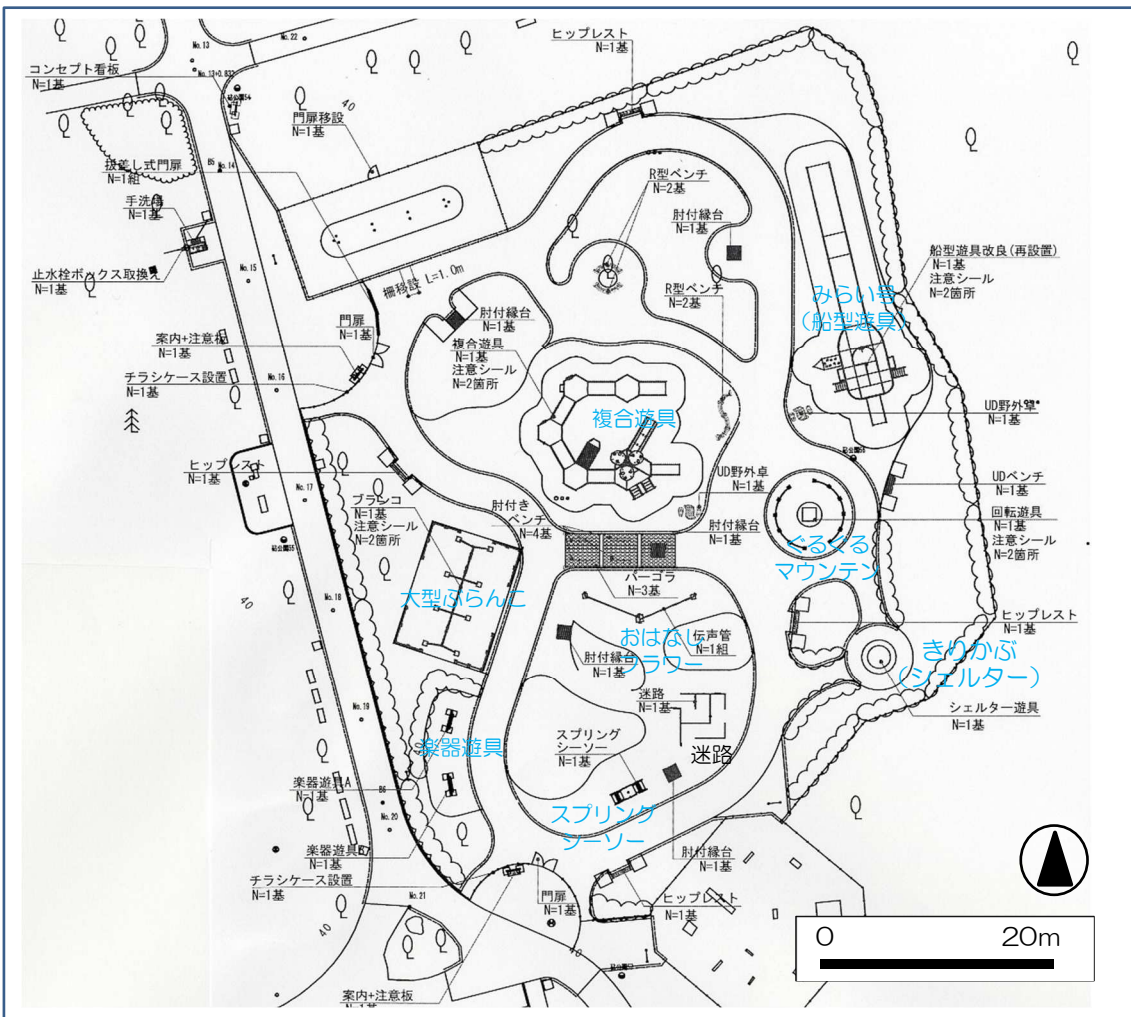


■施設概要

公園名	都立砧公園	広場名	みんなのひろば
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	令和2（2020）年3月	公園種別	広域公園
公園面積	39.2ha（開園面積）	広場面積	約 4,000 m ² 外周の柵内の面積は 3,200 m ²
開園時間等	夏 9：00-17：00 冬 9：00～16：00 無料。400m離れて公園管理事務所。		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は、障がいの有無にかかわらず、あらゆる子どもたちが共にあそび、楽しむことができる遊具広場の整備に取り組んでおり、その第1号としてオープンした施設。 整備に先立ち、さまざまな子どもの障がい関係者へのヒアリング及び有識者への意見聴取を行い、整備の方向性を検討した。 意見聴取の結果、障がいの種類が異なっても、「体幹の弱さに対応した遊具」や、「介助者との使用」、「ハイハイできるクッション素材の舗装」、「迷子や飛び出し防止の囲い」等の共通する意見が得られた。また、遊具広場以外にも、アクセスやトイレの施設内容などの共通意見もあり、それらを整備に反映させている。 		
主な UD 遊具等	複合遊具 伝声管 休憩施設	ブランコ パネル遊具（迷路など） 居心地の良い遊具	回転遊具 揺動遊具 等 楽器遊具 コージースポット

<p>管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・砧公園の指定管理者である（公財）東京都公園協会が管理している。 ・夏（4～8月）は午前9時から午後5時まで、冬（9～3月）は午前9時から午後4時まで利用可能。 ・基本的には、自由に遊んでもらうこととしており、常時、職員やプレイワーカーを配置する対応は行っていない。 ・混雑時（およそ300人を超える利用者数）には、人数制限をかける予定としているが、現在まで人数制限をかけるに至っていない。 ・遊具の安全点検は、毎朝、開園前に行っている。 ・定期的に、利用状況のモニタリング調査を行っている。
<p>利用状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンから、多くの子どもたちに利用され、人気の遊具は行列となることもある。 ・利用上の対応マニュアルなどは検討中である。 ・小さなトラブルなどは、子ども同士で順応して遊ぶ姿が見られる。 ・園内放送が聞き取りにくいせいか、閉園時間が近くなっても遊び続ける子どもたちが多く、定時の閉園に苦勞することが多い状況である。 ・人の少ない時間帯利用のニーズもあり、夏場の開園時間の延長を検討している。 ・年齢の高い障がい者への対応など今後検討課題になると思われる。

■ 平面図



■主な遊具



船型遊具「みらい号」(3~12才むけ)
車いすや歩行器でトップデッキにいき、幅
広の滑り台の滑降が楽しめる。



「みらい号」の幅2mのスロープ
車いすですれ違える広さがあり、海をイメ
ージしたパネルで演出している。



複合遊具(3~12才むけ)
複数のデッキはスロープで繋がり、車いすで
登り、滑り台の滑降が楽しめる。



スプリングシーソー(3~6才むけ)
幅が広く、乗り込みやすく、みんなで一緒
に利用できる。



ぐるぐるマウンテン(6~12才むけ)
背もたれシート、取手があり、乗りやすくみ
んなで回したり回されたりして楽しめる。



大型ブランコ(6~12才むけ)
円盤形、いす型、座板型の3種類から選べ
る。特に円盤型は人気がある。



おはなしフラワー(3~6才むけ)
管を通して話ができる。高さの異なる話口
がある。



楽器遊具 幼児向け(手前)と児童向け
(奥)の2台あり、背の高さで選択でき
る。ペダルを押す容易な操作で楽しめる。



迷路（3～12才むけ）
車いすも通りやすい幅。壁には、いろいろ仕掛けがあって、楽しみながら、迷路をぬけられるようになっている。



切りかぶ（シェルター遊具）
ごっこ遊びやクールダウンスポットとして利用できる。広場中心から少し離れた位置にある。

■主な施設



広場への園路と自転車置場
広場入口近くに自転車置場がある。広場内は自転車乗入れ禁止となっている。



出入口 人が溜まれるスペースがあり、段差なく広場に入れる。扉を開け閉めして、出入りする。



広場内の舗装 園路はアスファルト系舗装。遊具周りはゴムチップ舗装で、安全領域は必要に応じた厚さとなっている。



休憩スペース 手動で開け閉めできる日よけのパーゴラがある。ベンチは複数の種類があり選択できる。



外周の囲い 急な飛び出しや連れ去りのために設置。柵が目立たないように、前面に低木を植栽。



案内・表示 「みんなのひろば」の解説板があり、広場の遊び方、注意事項などを表示している。

2) 都立府中の森公園 にじいろ広場



位置図



■施設概要

公園名	都立府中の森公園	広場名	遊具広場(愛称:にじいろ広場)
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	令和3(2021)年	公園種別	総合公園
公園面積	17.1ha(開園面積)	広場面積	約0.5ha
開園時間等	夏 9:00-17:00 冬 9:00-16:00 無料		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・都立砧公園のみんなの広場に次いで、令和3年度に開園。 ・特別支援学校や福祉施設等を対象にヒアリング・意見交換を実施して運営方針を検討した。 ・広場名称や遊具の愛称等は、来園者や近隣の幼稚園、保育園の園児、小学校の児童の投票で決定。 ・従来からの遊具広場を既存の遊具で人気のあるものは残して「だれもが遊べる児童遊具広場」へ改修・整備。 		
主なUD遊具等	<p>【開放エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコ(いす型ハーネス付きブランコなど) ・スプリングシーソー ・メロディーパネル ・伝声管付パネル ・砂場(車いすのまま遊べるサンドテーブルあり) <p>【閉鎖エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合遊具(車いすでアクセス可能) ・トランポリン ・クライムネット 		
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・府中の森公園の指定管理者である(公財)東京都公園協会が管理している。 ・広場は、閉鎖エリアと24時間開放エリアに分かれている。 ・閉鎖エリアは、夏(4~8月)は午前9時から午後5時まで、冬(9~3月)は午前9時から午後4時まで利用可能。 ・基本的には、自由に遊んでもらうこととしており、プレイワーカーを配置していない。 ・遊具の安全点検は、開園前に行い、日中は警備員による巡回を行っている。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンから、多くの子どもたちに利用され、トランポリン、ブランコなどは行列となるため、回数制限や時間制限を設けている。 ・平日の利用状況は、午前中は未就学児、午後は小学生の利用が多い。 ・土日祝は年齢問わず午前中から多くの利用者で賑わう。 ・人気の遊具は複合遊具、トランポリン、ブランコなど。 ・開園後は、オープンイベントを開催。子どもたちが参加できる横断幕づくり、絵本の読み聞かせ等を実施、多くの参加者で賑わう。 ・広場のイラストマップや遊具の遊び方などを紹介するニュースレターを配布している。 ・キャラクターとめぐるクイズイベントなどを適宜開催している。 <p>【施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場(110台 うち身障者用3台)から遊具広場までの園路はバリアフリーになっている。 ・広場付近のトイレはだれでもトイレと子ども用便座を設置している。 		

■ 遊具一覧



■ 主な遊具

【開放エリア】



いす型ハーネス付きブランコ
体幹が弱いこどもも揺れを楽しめる



スプリングシーソー
幅が広く介助者と一緒に乗ることができる



メロディーパネル



伝声管付きパネル



サンドテーブル
車いすのまま利用できる

【閉鎖エリア】



複合遊具
車いすのまま頂上まで登ることができる



クライムネット
寝転んで遊ぶことができる



トランポリン
降雨後は安全に利用できるよう
清掃をしている

■主な施設



立ち上がりやすいベンチ



バリアフリー対応の水飲み

3) 国営昭和記念公園 わんぱくゆうぐ



平成 25 年度にリニューアルされた、ユニバーサルデザインに対応した大型複合遊具。

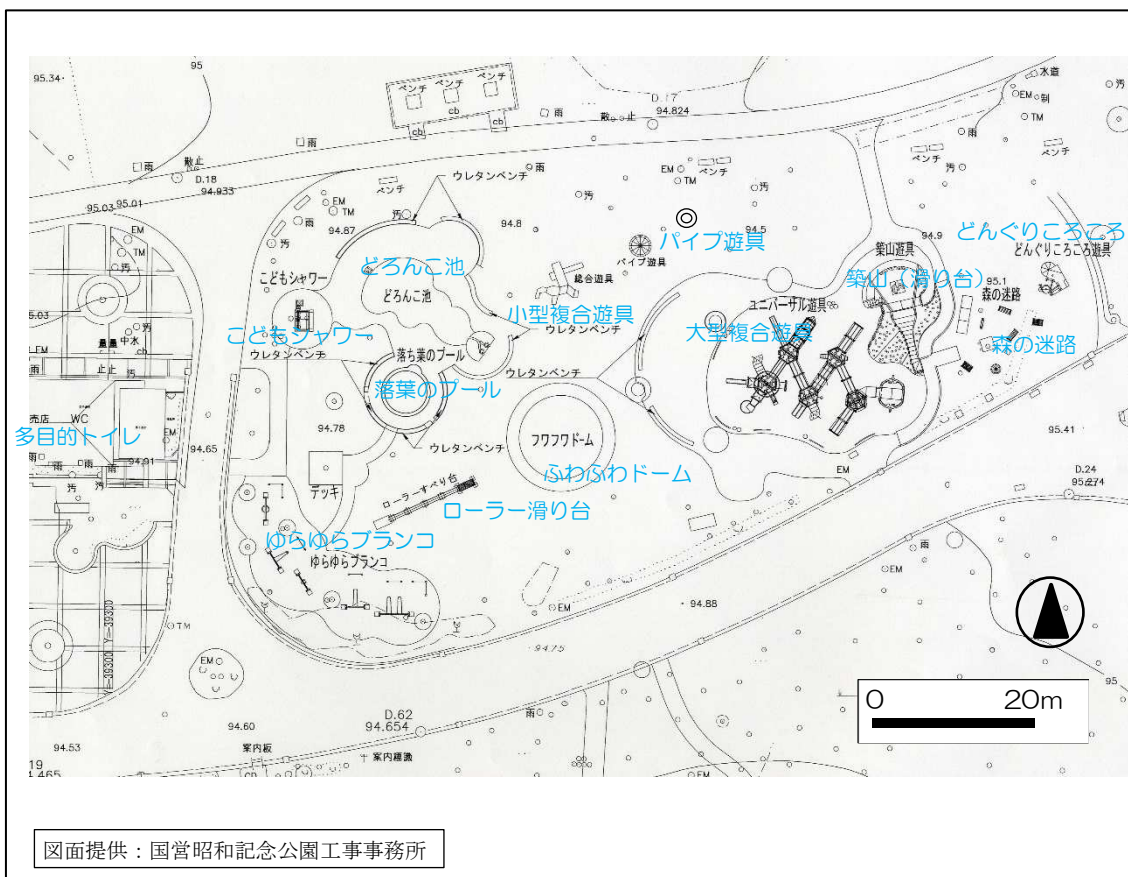
■施設概要

公園名	国営昭和記念公園	広場名	わんぱくゆうぐ
整備主体	国土交通省	管理団体	国営昭和記念公園管理センター
整備年次	広場改修は平成 13 年度	公園種別	国営公園
公園面積	約 165.3 ha	広場面積	約 4,000 m ² (図側)
開園時間等	国営公園の開園時間に同じ 国営公園の入園料 450 円 小人 0 円 シルバー 210 円		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 公園内には「こどもの森」という遊び場があるが、西立川駅から遠いので「みんなの原っぱ」の南側に「わんぱくゆうぐ」がつけられた。 開園当初からあったが、平成 6 年度に、車椅子に乗った障がいのある子どもが、健常な子どもと一緒に遊べる遊具を導入した。 平成 10 年度に、誰もが安心して楽しめる公園（ユニバーサルデザイン）をコンセプトに、ハード整備・ソフト対策を進めるための「国営昭和記念公園バリアフリー関連施設整備基本計画」が策定された。 平成 13 年度には、障がいのある子どもも健常な子どもも共にチャレンジ精神を鼓舞しながら遊ぶことが可能な遊具を目指し、わんぱくゆうぐ周辺エリア全体を対象に改修が行われた。 計画・設計段階で、支援学校などの児童の参加によるワークショップが開催されている。また、平成 13 年度の改修設計時には、利用者ニーズに関して関係団体等よりヒアリングが行われた。 		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 現在、指定管理者が管理している。 通常は、プレイワーカーのような職員はおらず、自由な利用になっている。 360° 全方向の防犯カメラを設置している。管理所で確認しており、危険行為等があれば中央管理棟に詰めている職員が対応する。 終了時間の園内放送は、録音による 4 か国語で放送している。 		

■位置図



■平面図



■主な遊具



大型複合遊具 安全領域の面積は200㎡を越える大きさ。車いすでスロープを登り、滑り台で滑れる。



小型複合遊具 2連の滑り台がある。



ゆらゆらブランコ 椅子型、ポケット型のブランコがある。



ふわふわドーム 空気膜構造の遊具で、飛んだり跳ねたり、揺れたりして遊べる。縁を高くして移乗しやすくしている。



築山（滑り台） 幅が広いので、友達や保護者と一緒に滑れる。



ローラー滑り台 この滑り台は、一人で階段を登り、一人で滑り降りる。



どろんこ池 水と砂（土）の遊び場



砂場 囲いの周囲の通路に高低差をつけて、利用をしやすくしている。（当初は「落ち葉のプール」としてつくられた施設）

VI 参考資料



森の迷路 植込みで迷路をつくり、車いすでも楽しめる迷路がある。低い目線で植物が楽しめる。



どんぐりころころ 上部からどんぐり（普段は小石）を落として、音を楽しむ。

■主な施設



案内・表示 広場内の遊具の配置を解説した案内板。



こどもシャワー だろんこ池で汚れた手足を洗う。背後の建物はトイレと売店。着替えもできる。



デッキ状のベンチ 木陰もある。



遊具利用の案内板 下側の図は、立体的な図で、触地図になっている。



外柵 広い園路側なので、簡単な木杭の柵があるだけ。こどもの飛び出しを防ぐ効果はある。外側は公園の園路。



広場内の彫刻 広場内にあった木をそのまま彫って彫刻としている。こどもたちの目をひいている。

4) 練馬区立豊玉公園 通称タコ公園



通称タコ公園。ユニバーサルデザインに配慮した遊具や施設が各所に配置されている。

■施設概要

公園名	練馬区立豊玉公園 通称タコ公園	広場名	—
整備主体	練馬区 (福祉部経営課)	管理団体	練馬区
整備年次	平成 21 年	公園種別	街区公園
公園面積	約 2,100 m ²	広場面積	—
開園時間等	常時開園 無料		

整備の背景
整備概要

昭和 43 年に整備された公園。開園後 40 年以上経過したことを機に、みんなが楽しめる公園を実現するため、ユニバーサルデザインモデル公園として改修の検討が平成 19 年度から進められた。(財)練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター(現(公財)練馬区環境まちづくり公社)協力のもと、障がい者、高齢者、子育て世代など多様な立場の方や有識者が参加するワークショップ(みんなのタコ会議)により議論が重ねられ、平成 22 年度に現在の公園の形でリニューアルオープンした。

豊玉公園のシンボル「タコのすべり台」のほか、見ても触っても公園のことが分かる「触知板」、車いすやベビーカーでものぼれるスロープがついた「小さな山」など、それぞれユニバーサルデザインに配慮した施設が配置されている。

主なUD遊具 等

- ・椅子型ブランコ
- ・一緒に滑れる滑り台
- ・車椅子でも遊べる砂場
- ・触知板

管理運営

練馬区が管理している。職員などは常駐しておらず、利用者の自由な利用となっている。

■平面図



■主な遊具・施設



タコをデザインモチーフにした滑り台
滑降部が広く、友達や保護者等と一緒に滑ることができる。



幼児用の複合遊具 移乗用のデッキもついている。



タコの足をデザインしたスロープ 車いす
でスロープの昇り降りを楽しめる。



レイズド砂場 車いす使用者も利用できる。



体幹の弱い子ども乗れる椅子型ブランコ
椅子型ハーネス付



バリアフリースイレ 識別しやすい色彩を
使用している。



案内板 触知図と点字で表示している。
出入口の2カ所に設置されている。



自転車置場と傾斜路 広場内への自転車乗
入を禁止し、置場を整備。高低差がある
ので傾斜路を整備している。

5) 世田谷区立二子玉川公園 遊具の広場



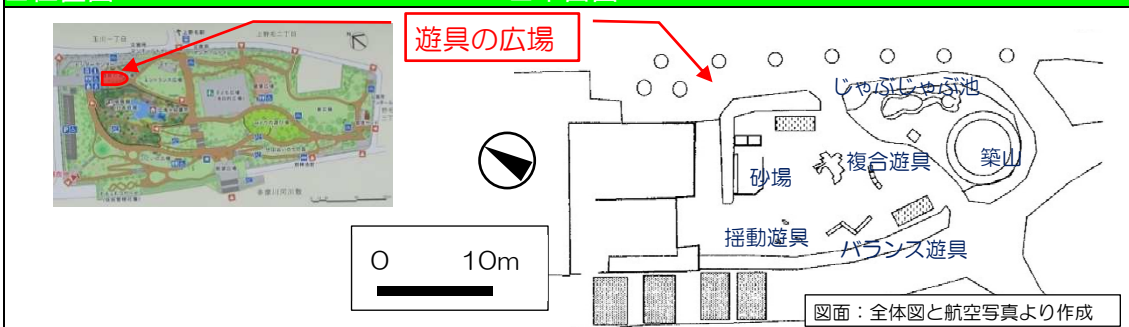
砂場や水遊び場など、ユニバーサルデザインによる施設が整備されている。

■施設概要

公園名	世田谷区立二子玉川公園	広場名	遊具の広場
整備主体	世田谷区	管理団体	世田谷区
整備年次	平成 25 年 3 月 遊具の広場を含む一部区域が開園。	公園種別	地区公園
公園面積	約 6.3ha	広場面積	約 750 m ²
開園時間等	常時開園 無料 ビジターセンターが隣接している。		
整備の背景 整備概要 等	<p>公園は、周辺町会、周辺小中学校の PTA、公募の区民による公園検討会で計画された。その中で、こどもがのびのび遊べる空間づくりが必要とされ、幼児対象と児童対象の 2 カ所の遊び場が整備された。設計段階から公園全体がユニバーサルデザインに配慮された計画となっている。特色ある施設として、障がい者や子育て団体とも意見交換して造った日本庭園や、民間事業者の設置・運営による飲食店（カフェ）などがある。</p> <p>遊具の広場は、小さなこどもが遊具で安心して遊べる広場として整備されている。砂場や水遊び場、ベンチなどはユニバーサルデザインに配慮した仕様となっている。</p>		
主な UD 遊具 等	<p>車いすでも楽しめるレイズド砂場 車いすでも触れる流れや入れる徒渉池 這い登ったり、転がったりできるゴムチップ舗装の築山 遊具の広場とは離れた場所には、レイズド花壇、ハーブの花壇がある。 南側のみどりの遊び場には、地形の傾斜を利用した滑り台がある。（上部と下部はバリアフリー園路で接続されている。）</p>		
管理運営	<p>区民・行政・事業者の協力による管理運営をめざしている。区民参加のワークショップにおいて、公園サポーターが組織されている。日常的な管理活動を支援するボランティアグループであり、「みどり」、「こども」、「安全安心」の 3 グループで活動している。</p>		

■位置図

■平面図



■主な遊具・施設



ビジターセンターと広場 隣接する左の白い建物がビジターセンター。



レイズド砂場 車いすに乗ったまま利用できる。



レイズド水遊び場 砂場同様、車いすに乗ったまま水の感触を楽しむことができる。



ジャブジャブ池 車いすでも入ることができる。



ゴムチップ系舗装の築山 這って登ったりすることができる。



登はん系の遊具 パネル遊具などと組み合わせている。



音が楽しめるパネル遊具 複合遊具に組み込まれている。



レイズド花壇 遊具の広場とは別の場所に整備されている。

6) 豊島区立 としまキッズパーク

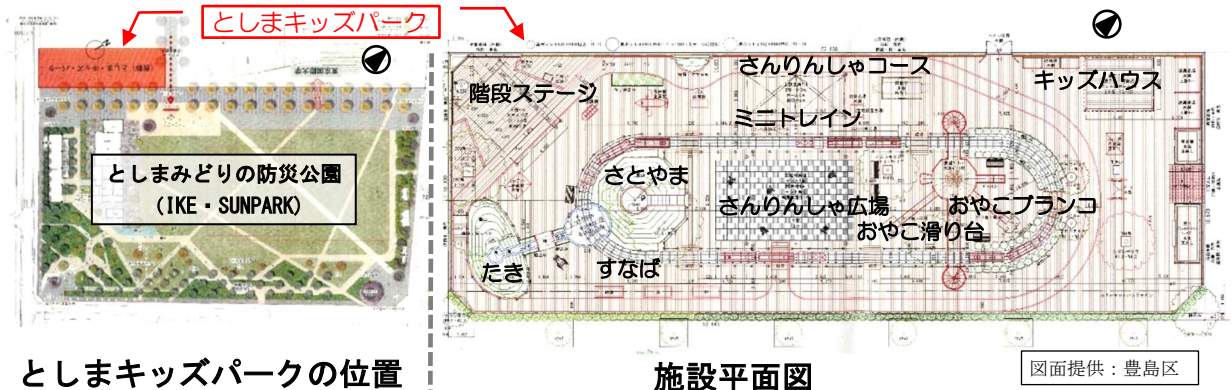


赤色（IKEBUKURO RED）をシンボルカラーとしてデザインされた、特色ある遊び場。

■施設概要

公園名	としまキッズパーク	広場名	—
整備主体	豊島区	管理団体	（リース契約）
整備年次	令和2（2020）年9月開園	公園種別	街区公園
公園面積	約 1,000 m ²	広場面積	—
開園時間等	10:00～16:00、利用時間1時間の完全入替制（R3.2月現在） 管理者常駐、無料		
整備の背景	<p>令和元年度に、区議会でインクルーシブな遊び場の必要性が取り上げられた。またあわせて、区民や区内団体から同様の要望などもあり、令和2年度に整備した「としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）」に隣接して、「としまキッズパーク」を整備した。</p> <p>世界的な工業デザイナーである水戸岡鋭治氏の設計である。</p> <p>「公園の遊具全部がユニバーサルデザインでなくとも良い、1～2基でもインクルーシブな遊具があれば一緒に遊べる。」という関係保護者の意見もあり、参考とした。</p> <p>ミニトレインの導入、柔らかな木質感の床面などは、設計者の水戸岡氏の提案。</p>		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> • 現在は、新型コロナの影響で、事前予約制の閉鎖管理を行っている。 • 1時間の入れ替え制。10時,11時,12時、13時,14時,15時の6回/1日。 • 午前中は近隣等の保育園児の利用、各回80名程度の入れ替え制。大人、こども込み。1日最大で400名位までは許容。 • 設計から維持管理、運営までを5カ年のリース契約で行っている。 • スタッフによる有人管理を行っている。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> • 当初、予約制は想定していなかった。利用希望者から予約が取りにくいとの声もあるが、当日受付も始めたため、週末を除きかなり入園しやすくなってきている。 • 供用開始後、特に大きな問題は起きていない。 		

■位置図と施設平面図



としまキッズパークの位置

施設平面図

図面提供：豊島区

■主な遊具



おやこ滑り台 幅1mあり、親子で滑ることができる。未就学児を対象にしている。



おやこブランコ 乗り移りがしやすくなっている。軽い揺れを楽しむことができる。



ミニトレイン 扉がついており、跨ぐことなく乗り降りできる。



おやこレールバイク レールを走ることができ、4輪車は、前かごに小さな子どもを乗せることができる。



キッズハウス 屋根が日除け、雨除けになる。中では、木のおもちゃで遊ぶことができる。



すなば 車いすでも砂遊びができる。

7) シンボルプロムナード公園（期間限定）



公園指定管理者の自主事業として一定期間公園に遊具を設置。遊び場の検証を行った。

■位置図



シンボルプロムナード公園「ウエストプロムナード」エリア。フジテレビ湾岸スタジオと日本科学未来館の間の芝生エリア

設置場所

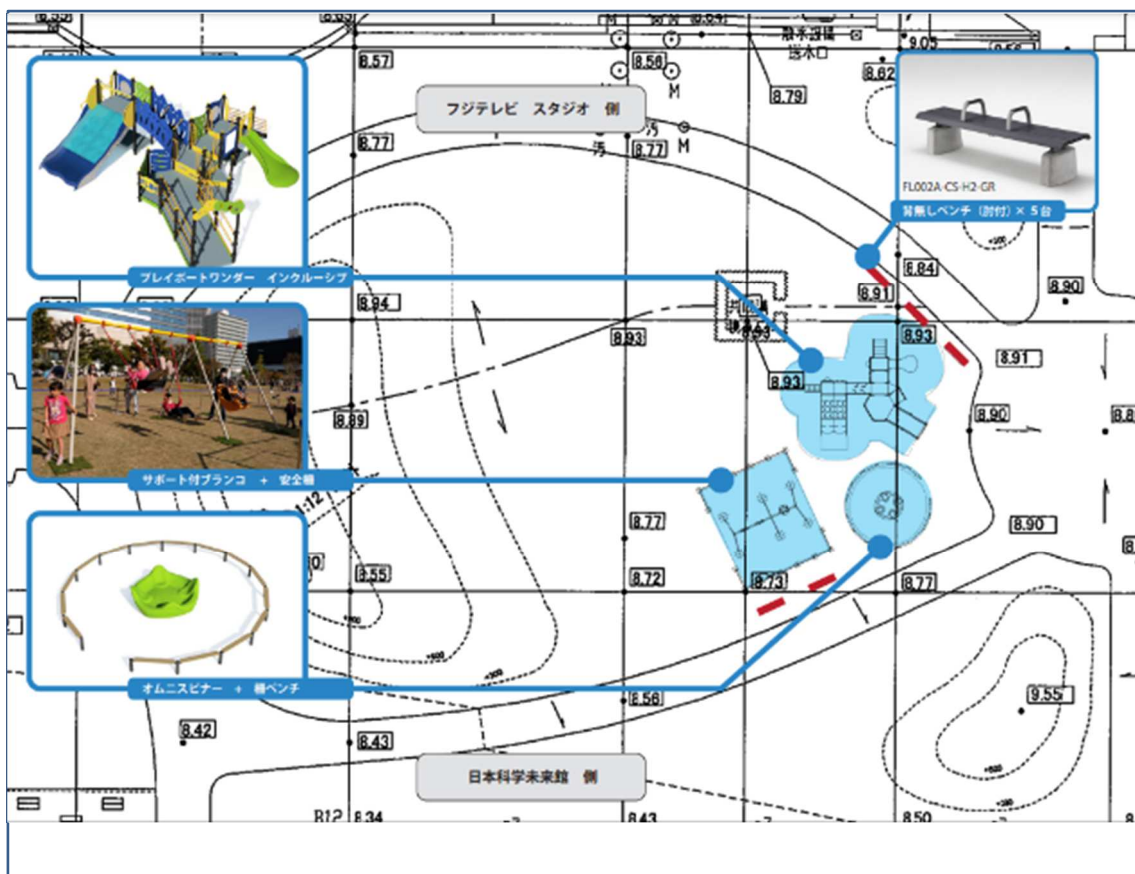
■施設概要

公園名	都立シンボルプロムナード公園	広場名	インクルーシブ・プレイグラウンド
整備主体	東京港埠頭株	管理団体	東京港埠頭株
整備年次	令和3年4月	公園種別	海上公園
公園面積	約29.4ha（開園面積）	広場面積	約4,500㎡
開園時間等	令和3年4月15日から7月25日に開設		
整備の背景	<p>これまで利用が叶わなかった障がいを持つ方々も健常者と一緒に遊べる環境を実際に整備することで、多様な利用を創出するとともにリアルタイムの利用から得られるデータとノウハウの蓄積を目的とし、指定管理者の自主事業として行なわれた。</p> <p>この取組みを「先進的で魅力あるまちづくり」を推進し、オリンピックの開催で注目が集まる「東京臨海副都心」の都立シンボルプロムナード公園にて仮設整備することで、共生社会への新たなチャレンジを公園から発信する取り組みを行った。</p>		
主な遊具等	複合遊具 回転遊具 サポート付き3連ブランコ ベンチ		

VI 参考資料

<p>管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遊具に関してはこの検証作業の協賛企業の遊具メーカーが設置し、遊び場の管理は当公園の指定管理者である東京港埠頭株式会社が行った。遊び場に仕切り等設けず、常時来園者が利用できる状況下の基、約3か月半の間遊具を一般開放した。 管理としては毎日の巡回、遊具の目視点検を行うと共に、遊具メーカーが定期的に遊具の設置状況を確認した。
<p>利用状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスの蔓延時期でもあったため、対外的な告知活動は行わず、近隣の居住者や特別支援学校のこどもを中心に利用頂いた。 期間中は比較的混雑することなく一般開放が行われ、事故やトラブル無く検証を終了した。 利用者の実態調査を行うため、QRコードを遊具に設置し、任意によるオンラインのアンケート調査を行った。期間中に約80件のアンケート回答を頂き、遊び場、遊具に関する様々な意見、要望を収集した 誰もが遊べる遊具広場の視察として、期間中に東京都内、及び周辺自治体の公園整備担当者も視察に来られた。管理者が把握する限りでは32件の視察があった模様。

■配置図



■主な遊具



プレイポートワンダーインクルーシブ
だれもが遊びやすい設計と、様々な遊びの機能を持ち合わせた遊具。



オムニスピナー
車椅子からの移乗のし易さも考慮して設計された回転遊具。



サポート付き3連ブランコ
通常のブランコ2座に加え、サポートの付いたシートを1座設置したブランコ



ベンチ
子どもだけでなく保護者や介助者も快適に過ごせる様、ベンチも設置

■その他施設・備品



トイレ
バリアフリー仕様



コンセプトサイン
遊び場の考えを利用者に周知するため、遊具にメッセージサインを記載

8) 舎人公園 「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」・「幼児の遊び場」



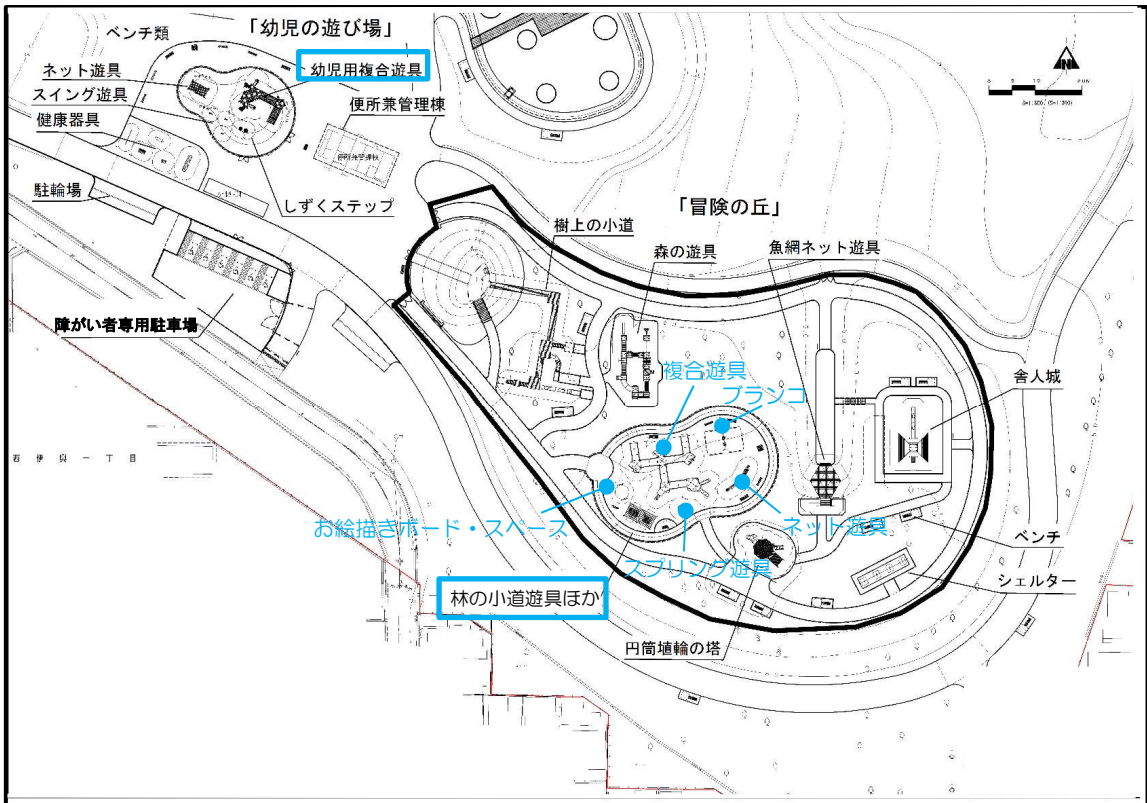
■位置図



■施設概要

公園名	都立舎人公園	広場名	冒険の丘（林の小道遊具ほか） 幼児の遊び場
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	冒険の丘 令和3（2021）年4月 幼児の遊び場 令和3（2021）年10月	公園種別	総合公園
公園面積	63.1ha（開園面積）	広場面積	冒険の丘 約10,000㎡ （うち林の小道遊具ほか 約1,000㎡） 幼児の遊び場 約1,200㎡
開園時間等	夏10:00-17:00 冬10:00~16:00 無料。		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・舎人公園の北を流れる毛長川流域は、区内でも最も遺跡が集中しているところであり、すでに古墳時代には人々の生活の場になっていたことから、これらの歴史をモチーフとして「冒険の丘」は整備された。 ・安全な利用を促すためにゾーニングを行い、「冒険の丘」は6才から12才を対象とした遊具を設置し、「幼児の遊び場」には3才から6才を対象とした遊具と大人向けの健康遊具を設置し、こどもから大人まで幅広い世代がそれぞれに楽しみを持ちながら一緒に訪れてもらえる場所になるようにした。 ・現在、公園遊具においてもユニバーサルデザインを採り入れることが標準であるとの考えから、「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」や「幼児の遊び場」に車いす利用者や自分の力で体を支えられないこどもも遊べる遊具を追加し、多様な利用者が集える広場の実現を図った。 ・安全性を重視し、高さのある遊具周辺の舗装はゴムチップ舗装とした。 		
主な遊具等	「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」 複合遊具 ブランコ ネット遊具 スプリング遊具 お絵描きボード・スペース 休憩施設等 「幼児の遊び場」 幼児用複合遊具		
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・舎人公園の指定管理者である（公財）東京都公園協会が管理している。 ・冒険の丘は、夏期は午前10時から午後5時まで、冬期は午前10時から午後4時まで利用可能。時間外は施設。 ・遊具の安全点検、毎朝、開場前に行う他、触診・聴診点検、有資格者による点検等を、定期的を実施。 ・「冒険の丘」前に設置されている便所兼管理棟および広場内にはスタッフが常駐しており、利用の様子を見回っている。 ・隣地に駐輪場を設置。障がい者専用駐車場では、事前予約を受け付けている。 ・暑さ指数31超えや注意報警報発令時には、利用者に注意喚起を行う。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン当初から、多くのこどもに利用されている。ほぼ毎朝、開場を待つこどもや保護者が集まっている。 ・平日の場合、午前中は2~3才の幼児、午後は帰路途中の園児、閉場間際には小学生が多い。 ・土日祝は利用者が特に多く、保護者を含め1000人を超える日もあった。 ・人気の落書きコーナー用に貸し出しているチョークは、月平均で約100本。 ・閉園時刻になっても遊び続けるこどもや大人がいるため、職員が場内を移動しながら、退場を促している。 		

■ 平面図



■主な遊具

「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」



複合遊具「林の小道遊具」
（6～12才向け）

車いすや歩行器でトップデッキまで上がることができる。階段は車いすが横付けでき、移りやすいようになっている。付添の方やお友達と一緒に滑ることができる2連滑り台がある。デッキには太鼓や伝声管、遊びパネル（聴覚や触覚で楽しむ）がついている。



二連ブランコ（6～12才向け）
背もたれと安全バーが付いているブランコのため、体を自分の力で支えられないこどもも乗って楽しむことができる。



ネット遊具「キッドネットロープコース」
（6～12才向け）

ロープを掴みながら、揺れるはしごを楽しむことができる。ハンモックは寝転んで遊ぶこともできる。



スプリング遊具「ロックアバウト」
（6～12才向け）
一人でも友だちと一緒に乗っても揺れを楽しむことができる。寝転んで遊ぶこともできる。



お絵描きボード・スペース（6～12才向け）
お絵描きボードは、車いすに座ったままお絵描きを楽しむことができる。地面にも黒板があるため、地面にお絵描きをすることもできる。

Ⅵ 参考資料

「幼児の遊び場」



幼児用複合遊具（3～6才向け）

ベビーカーや車いす、歩行器でトップデッキまで上がることができる。階段は車いすが横付けでき、移りやすいようになっている。

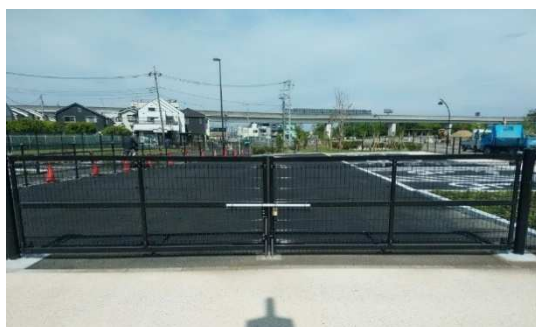
デッキにはO×パネル、チャイムやベルのパネル、ドライビングパネル、コロコロパネル、柱に伝声管がある。

■主な施設



駐輪場

冒険の丘入口付近には、駐輪場がある。冒険の丘や幼児の遊び場内は自転車乗入れ禁止となっている。



障がい者専用駐車場

冒険の丘入口付近には、障がい者専用の駐車場がある。利用は事前予約制。



外周フェンス①

冒険の丘の外周はフェンスで囲われており、夜間は閉場している。



外周フェンス②

林の小道遊具付近の斜面勾配が大きい箇所については転落防止のため、フェンスを設置している。



便所兼管理棟

来園者用の便所、ベビー休憩室、スタッフが常駐する管理棟がある。

ベビー休憩室には、授乳室やおむつ交換台が設置されている。



休憩スペース②

冒険の広場に設置されているベンチは、車いすの方と一緒に利用できる。



休憩スペース①

林の小道遊具付近の休憩スペースは、パーゴラによって日差しが遮られている。また車いすの方と一緒に利用できるテーブルが設置されている。

9) 品川区立大井坂下公園



JR大森駅東側にある、遊具主体の公園。令和3年度に公園の全面改修に伴い、こどもたちのアイデアを活用し、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行った。

■位置図

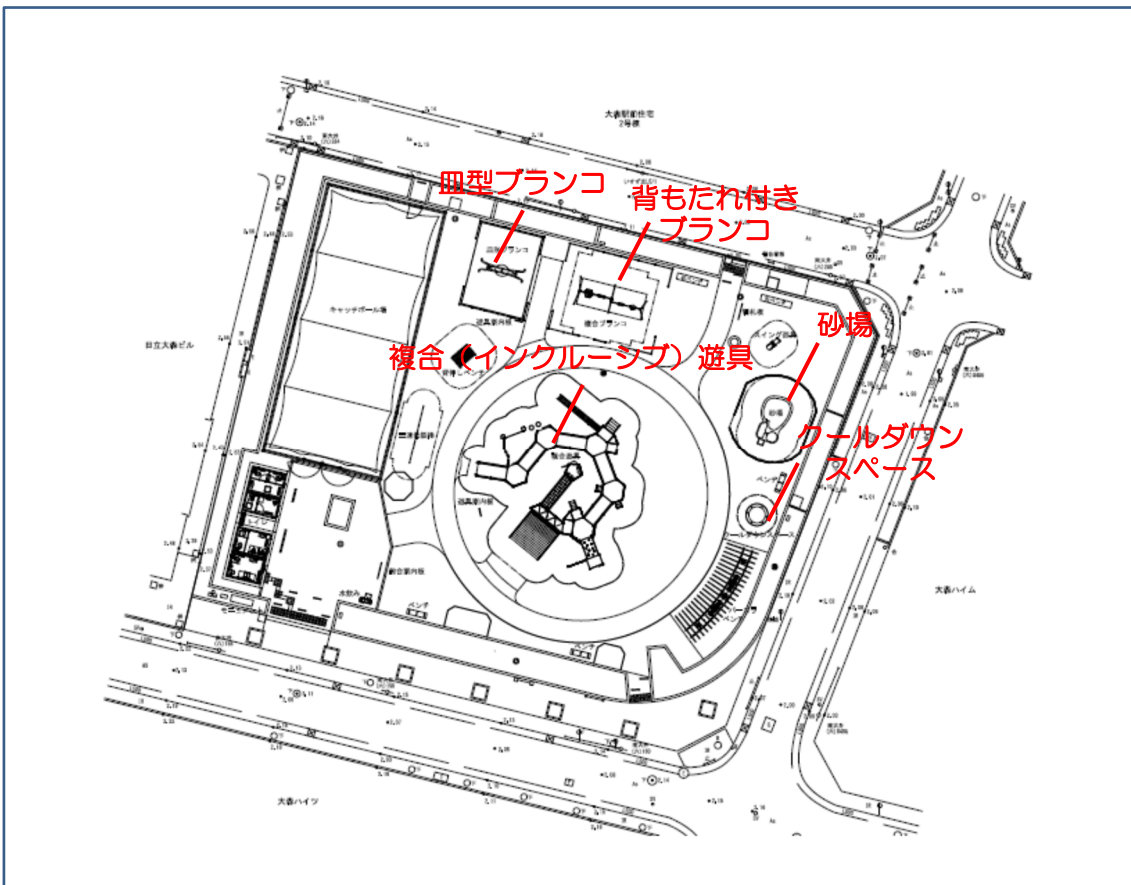


■施設概要

公園名	区立大井坂下公園	広場名	-
整備主体	品川区	管理団体	品川区
整備年次	令和4年3月	公園種別	街区公園
公園面積	2329.37 m ²	広場面積	-
整備の背景	<p>品川区基本構想「区民と区の共働で、「私たちのまち」品川区をつくる」の理念に基づき、区の未来を担うこどもたちが、自らの手で公園を計画することで、公園を身近に感じてもらうと同時に、まちづくりに参加している意識も持ってもらうことを目的とし、区内の小学3年生～4年生を対象としてワークショップを実施した。</p> <p>令和元年度から2年度にかけて計6回のワークショップを実施し、障がいの有無にかかわらず、みんなが一緒に遊べる公園のアイデアについて検討を重ねた結果に基づき、スロープ等のついた複合遊具や車いすに乗ったまま遊べる砂場などのユニバーサルデザイン遊具を整備した。</p>		

<p>主な遊具等</p>	<p>複合（インクルーシブ）遊具 砂場 ブランコ 伝声管 パネル遊具 休憩施設 鉄棒 スイング遊具 等</p>
<p>管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常時解放、管理者常駐なし。 ・委託業者による巡回、遊具点検および利用状況確認を実施している。 ・職員やプレイリーダーは配置せず、自由に利用できる。 ・混雑時にも人数制限をかけるに至っていない。
<p>利用状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近傍に大きな公園がないため、特に近隣住民が集まる傾向がある。 ・遊具の利用において子ども同士のトラブルも少なく、順応して遊んでいる。 ・障がい者の利用には同伴者が必要であるが、一般の利用者と一緒に遊べる状況となっている。

■ 平面図



■ 主な遊具・施設

• 複合（インクルーシブ）遊具

車いすでも頂上まで登れるスロープや自分の気持ちを伝えることができるコミュニケーションサイン、並んでいるときも楽しめる複合遊具を整備。



• 背もたれ付きブランコ

タイプの異なるブランコを用意し、小さな子どもや体幹の弱い子どもが幅広く楽しむことができる。



• 砂場

高さの異なる砂場で車いす利用者と一緒に砂遊びができる。



• 皿型ブランコ

皿型の座面は体幹が弱い子どもや複数人で楽しむことができる。遊具手前には、足のマークで並び順を表示。



• クールダウンスペース

気持ちの切り替えが苦手な子どものための休憩スペース。



10) 品川区の取組—こどもたちのアイデア等を活かした公園づくり—

■取組の概要

■取組の経緯

品川区では、『区民と区の協働で、「私たちのまち」品川区をつくる』という品川区基本構想の理念に基づき、平成20年度にこどもたち自身が様々な議論と検討を行い、広く区民に愛される公園を整備するための計画案づくりを開始した。以降の公園改修においては、こどもたちのアイデアを活用した公園整備として、その計画案を実現すべく設計・工事を実施することとしている。

この検討の特色は、こどもたち自身が公園を計画するというコンセプトを引き継ぎつつ、障がいをもつこどもたち等も使用できるユニバーサルデザインに配慮された公園（遊具）を実現する計画案を作成していることである。

■ワークショップの企画・運営

ワークショップを開催し、レクチャー、クイズ、インタビュー等によりユニバーサルデザインを考えるきっかけをこどもたちに与え、計画案がされた。5回開催されたワークショップのそれぞれの目標・目的は以下のとおりである。

- 第1回 お互いを知る、発言しやすい雰囲気をつくる、遊びのタイプをみつける
 - 第2回 人の多様性や多様なニーズがあることに気付く
 - 第3回 公園に含まれる多様な工夫に気付く
(二子玉川公園の遊具の広場を訪れてのワークショップ)
 - 第4回 ユニバーサルデザイン、インクルーシブの観点を学ぶ
インクルーシブな遊び場づくりのポイントを学んでのアイデア出し
 - 第5回 こどもたちによるアイデア出し
- 発表会 成果の共有



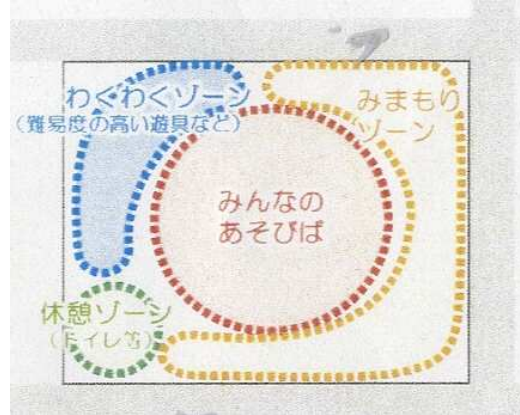
子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ
アイデアブック

アイデアブック ワークショップの成果がアイデアブックとしてとりまとめられた。

■公園計画案の作成

品川区でのゾーニング検討の一例

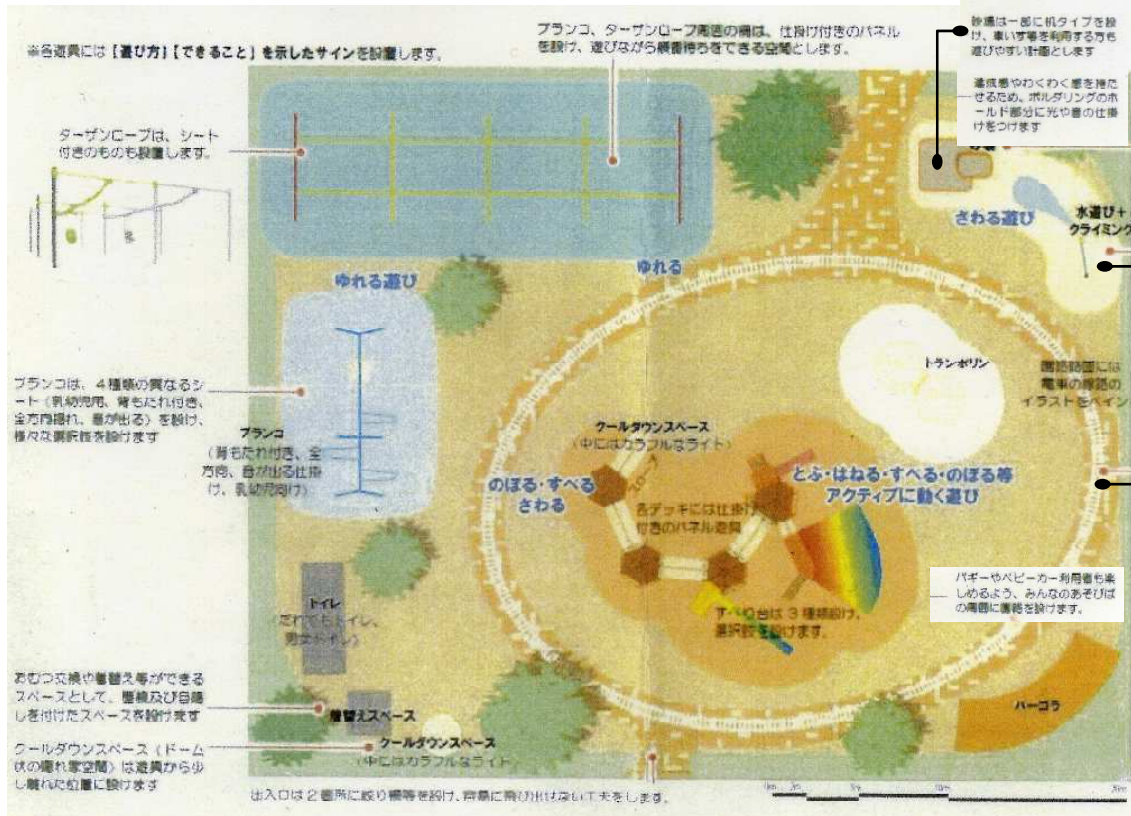
ゾーン名	ゾーンの考え方	配置する施設
みんなのあそびば	公園全体の中で中心に位置し、また誰もがアクセスしやすいゾーン	ユニバーサルデザインに配慮した遊具
みまもりゾーン	「みんなのあそびば」と隣接し、公園全体の様子を見渡すことができるゾーン	ベンチや日除け等
わくわくゾーン	「みんなのあそびば」と隣接した、こどものチャレンジ精神を引き出すゾーン	難易度や対象年齢が高い遊具(ユニバーサルデザインではない遊具も含む)
休憩ゾーン	トイレや水飲み場等、公園利用者が休憩することができるゾーン	だれでもトイレ、着替えスペース、クールダウンスペース等



計画案ゾーニング

資料：「子どもたちのアイデア等を活かした公園づくり基本構想委託 報告書」品川区

■公園計画案



11) 豊島区立南長崎はらっぱ公園



公園入口からはスロープを使ってインクルーシブ遊具まで向かうことができる。

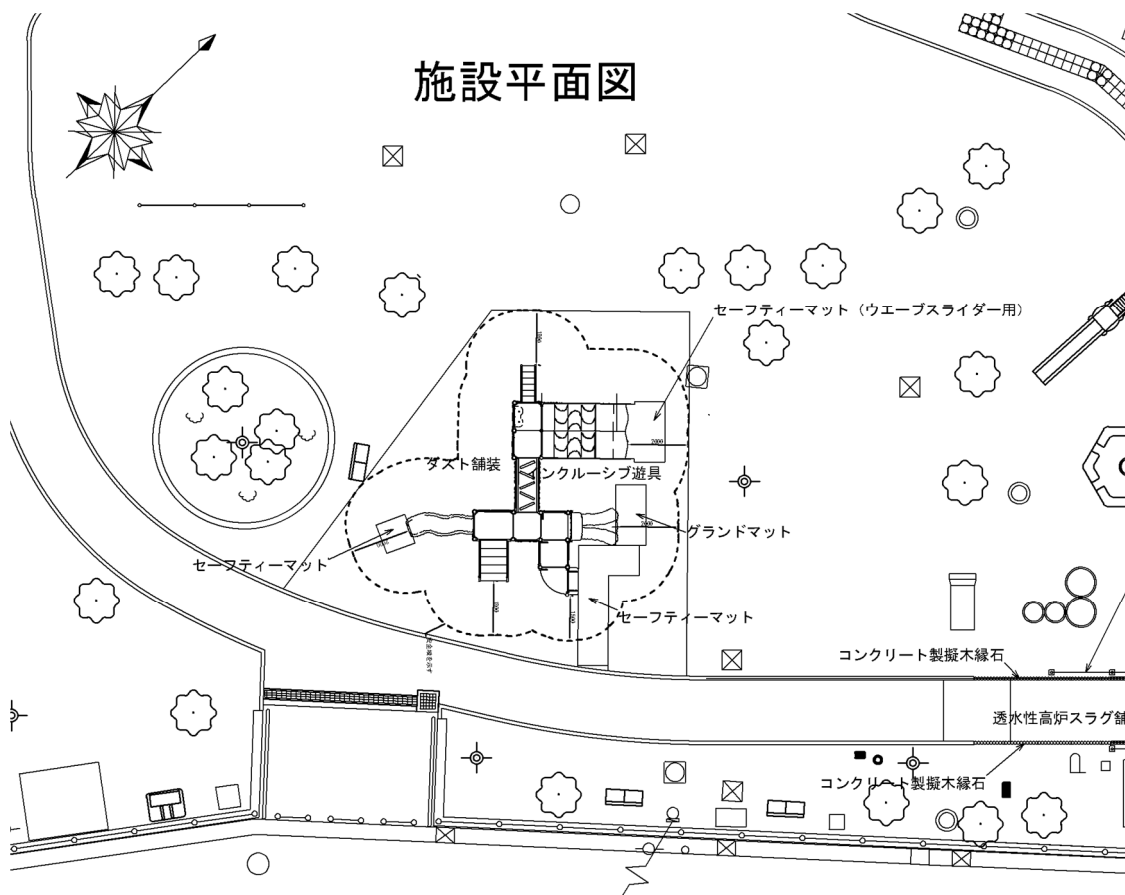
■位置図



■施設概要

公園名	南長崎はらっぱ公園		
整備主体	豊島区		
整備年次	令和3（2021）年度		
公園面積	5734.38㎡		
整備の背景	<p>かつての区営プールと西椎名町公園の一体的な整備に伴い、計画の段階から町会、商店会、南長崎4、5、6丁目防災まちづくりの会など地域の組織が連携をとりながら、ワークショップでイメージを積み上げ、「防災に役立ち、住民の交流を深め、様々な世代の人たちが楽しく過ごせる」こうした思いのこもった南長崎はらっぱ公園としてオープンした。</p> <p>令和3年度に、老朽化した木製遊具をだれもが遊べる遊具へ改修する。</p>		
主な遊具等	複合遊具 すべり台 砂場	トンネル ステップ台	鉄棒 伝声管
管理運営	豊島区公園緑地課が管理・運営している。また、地域のボランティア団体が花壇を管理したり清掃を行ったりしている。		
利用状況等	開放してから未就学児から小学生までの多くのこどもたちに利用されている。		

■平面図



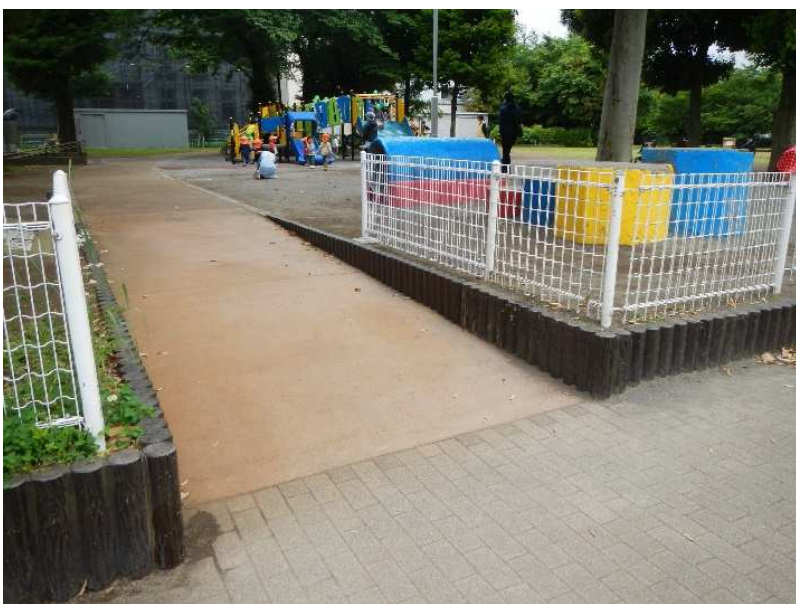
■主な遊具



複合遊具

- ・車いすが転回できるスペースを確保（直径 1500 mm以上）
- ・車いすが横付けし、遊具に乗り移りやすい階段
- ・介助者と一緒に登れる幅広階段
- ・滑り台下のクールダウンスポット
- ・車椅子でも遊べるプレイパネル

■主な施設



スロープ

- ・公園入口から遊具までのバリアフリー

12) 渋谷区立恵比寿南二公園 通称ぶた公園



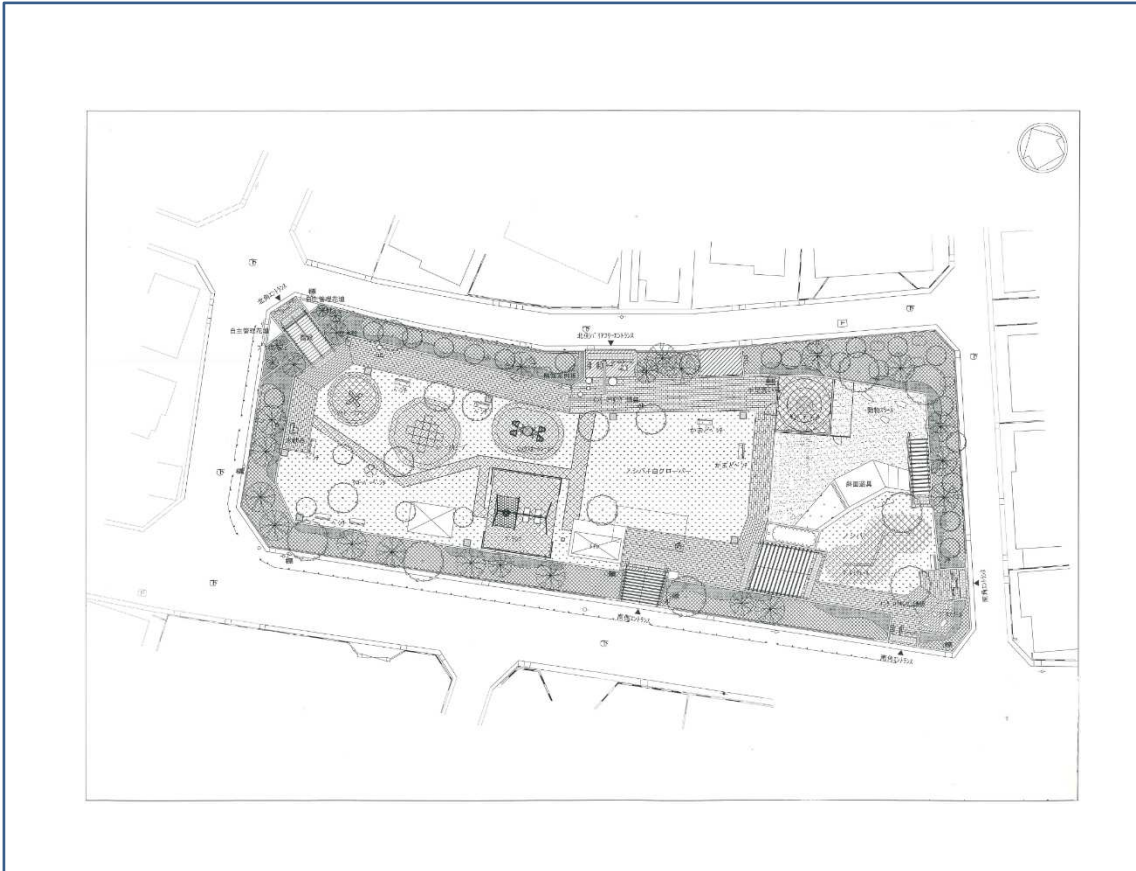
■位置図



■施設概要

公園名	恵比寿南二公園 通称：ぶた公園	広場名	—
整備主体	渋谷区	管理団体	渋谷区
整備年次	令和2年度（開園は令和3年度）	公園種別	街区公園
公園面積	約 1,890 m ²	広場面積	約 600 m ²
開園時間等	常時開園・無料		
整備の背景	<p>昭和 28 年に「向山公園」として開園され、昭和 35 年に「恵比寿南二公園」と公園名が変更された。</p> <p>その後、老朽化が進んだことから、周辺住民や利用者の方々と約 4 年間意見交換を重ね、だれもが遊べるインクルーシブな遊具や、防災機能を取り入れた公園としてリニューアルした。</p>		
主な UD 遊具等	<p>シーソー（ロックスオールシーソー）</p> <p>ブランコ（3連サポート付きブランコ）</p> <p>砂場（サンドテーブル）</p> <p>ジャングルジム（スペースキューブ）</p> <p>回転遊具（シャドーフラワー）</p> <p>だれでもトイレ</p>		
管理運営	<p>公園全体</p> <p>渋谷区による管理</p> <p>職員やボランティア等の常駐は無し</p> <p>24時間開園</p> <p>遊具</p> <p>有資格者による点検を年1回実施</p> <p>植栽</p> <p>高木：委託による剪定等</p> <p>中低木・地被類：直営による剪定等</p>		
利用状況等	<p>こどもから高齢の方まで幅広く利用されている</p> <p>平日は、午前は近隣保育園や幼児、午後は児童の利用が多い</p> <p>休日は、終日こどもの利用が多い</p> <p>平日休日ともに、高齢者の散歩等が多い</p> <p>夏季は、ラジオ体操が開催されている</p> <p>既存の遊具（プレイウォール等）を含む全ての遊具が利用されている</p> <p>課題は芝や植栽の管理</p> <p>芝エリアは利用者が多いため、衰退しやすい。そのため、養生に伴う利用禁止期間が長い。</p> <p>植栽については、多種多様な植栽を導入し、彩のある植栽となっている一方管理が難しく、生育が悪い植栽も見受けられる。</p>		

■ 平面圖



■主な遊具



シーソー バケットが付いていて体を支える力が弱いこどもも揺れを楽しめる。



砂場（サンドテーブル） 車いすでも利用が可能。



パネル遊具



ジャングルジム



シャドーフラワー カラーフルな影が地面に映る。



バケット付ブランコ 体を支える力が弱いこどもも揺れを楽しめる。

■ 主な施設



入口から案内板までの誘導ブロック。



点字の案内板。



公園の通称にもなっているぶたの手洗場。



シンプルな手洗場。



バリアフリー対応の水飲み。



クローバーベンチ ベンチの高さが異なることにより、だれでも利用することができる。



ユニバーサルデザインに配慮したトイレ



手摺端部の点字表示



車いす対応の車止め



ピクト表示

13) 都立 練馬城址公園 遊具広場（花のふれあいゾーン内）

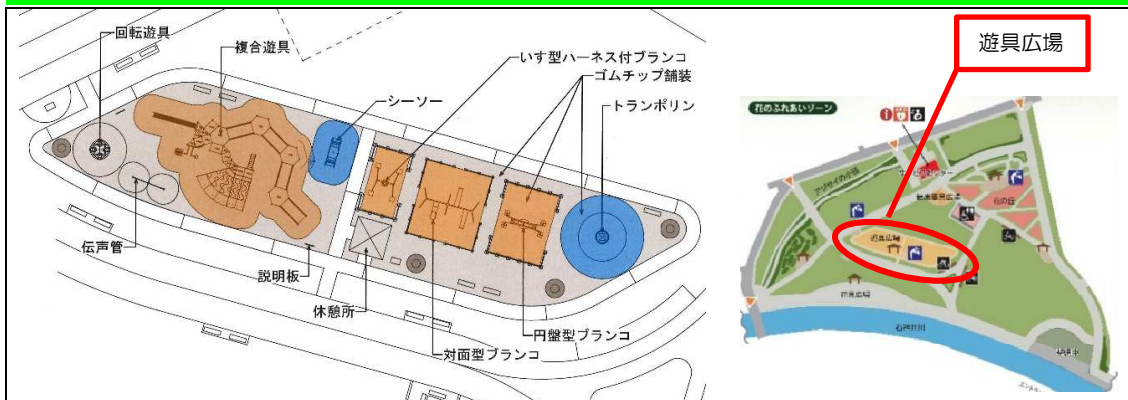


草地広場内、周囲を外柵に囲まれた遊具広場には多数のUD遊具や施設が設置されている。

■施設概要

公園名	練馬城址公園	広場名	遊具広場（花のふれあいゾーン内）
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	令和5（2023）年5月に一部開園	公園種別	総合公園
公園面積	約3.2ha（当初開園区域）	広場面積	約1,200㎡（図測）
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	<ul style="list-style-type: none"> 練馬城址公園は、長年にわたって人々ににぎわった遊園地「としまえん」跡地に土地の歴史・風土、緑豊かな自然を大切に、公園利用者に加えて、地元町会等の地域団体やNPO等、多様な主体が関わり、人々が交流しながら公園を創りあげていくという考えの下、令和5年度に一部開園された。 練馬城址公園では整備計画答申やオープンハウスにおいて、体の不自由な人も楽しめる多様性を実現していく公園整備の要望や、インクルーシブ遊具設置の意見が挙がり、東京都は福祉のまちづくり条例等に基づき、公園施設の改修や新規整備において、ユニバーサルデザインの考え方に基いた整備を進めることとしており、本公園においてもUD遊具を積極的に導入した。 		
主なUD遊具等	複合遊具（滑り台、パネル、どんぐりころころ、コーススペース）、ブランコ（いす型ハーネス付・円盤型・対面型ブランコ）、シーソー、回転遊具、ミニトランポリン、伝声管		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 練馬城址公園の指定管理者である（公財）東京都公園協会が管理している。 外周に外柵が設置されており門扉もあるが、現在は常時開放としている。但し、使用状況により閉鎖管理とする可能性について掲示物で警告している。 プレイワーカーは設置していない。 		

■平面図



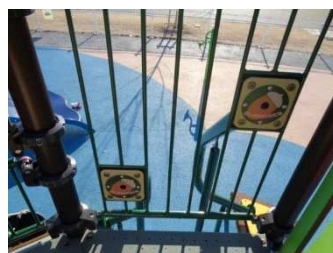
■主な遊具・施設

**複合遊具（スロープ付）**

車いすで頂上付近まで登ることができ、車いすを降りて複数の滑り台を楽しめる。車いすが転回できるスペース（W1.5m以上）で多様な種類のパネル（触覚や視覚）遊びができる。

**複合遊具頂上（どんぐりころころ）**

頂上にある穴からどんぐりを落とし、落ちる音や落ちた場所にある缶や鉄筋の音を楽しむ。拾ったどんぐりを袋に入れておけば、頂上の踊り場から紐を引っ張り上まで上げられる。

**複合遊具すべり台下（コージースペース）**

滑り台下はコージー（心を落ち着かせる）スペースとなっており、幼児用のベンチが設置されている。

Ⅵ 参考資料



いす型ハーネス付きブランコ
体幹が弱い子どもが揺れを楽しめる。



円盤型ブランコ
親子や体幹が弱い子どもと介助者等と一緒に寝そべったまま揺れを楽しめる。



対面型ブランコ（写真左側）
親と子や、体幹が弱い子どもと介助者が向き合って一緒に揺れを楽しめる。



シーソー
幅が広く、介助者や他の子どもたちと一緒に乗って遊ぶことができる。スプリングシーソーなので1人でも遊べる。



回転遊具
車いすからの移乗のしやすさを考慮して設計された回転遊具。体幹の弱い子どもも安心して足を伸ばして座れる。



ミニトランポリン
飛んだり、跳ねたり、寝転んだりして遊べる。縁が高い（H0.3m）ため、車いすから移乗しやすい構造となっている。



伝声管
管を通して遠くの人とお話ができる。話し口の高さは0.75m。



説明板・仮設の注意喚起

遊具広場利用の趣旨や注意事項が記載されている。またカラーコーンや外柵に子どもたちが安全に遊ぶための説明や注意事項を記載した掲示物を貼り注意喚起している。



外柵

急な飛び出しを防止する目的で設置されているため、門扉はあるが常時開放している（利用状況次第で閉鎖管理可能）。



休憩スペース

縁台の脇は、どこからでも車いすが横付けできるスペースが確保されている。



水飲み（手洗い付）

バリアフリー対応の水飲みで、幼児も飲みやすい高さの水栓が付いている（3口用）。



トイレ

ユニバーサルデザインに準拠したトイレが遊具広場の目の前に設置され、ベビーベッドが備わっている。



駐輪場

遊具広場の外に設置しており、広場内への自転車での進入は禁止している。

14) 日野市立 日野中央公園 インクルーシブ遊具広場



整備前から特別支援学校や保育園等とワークショップを重ね、整備を行った遊具広場。

■施設概要

公園名	日野中央公園	広場名	インクルーシブ遊具広場
整備主体	日野市	管理団体	直営（日野市）
整備年次	令和5（2023）年5月	公園種別	近隣公園
公園面積	約 2.3ha	広場面積	約 230 m ²
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインのまちづくりを進めて行くにあたり、性別、国籍、障がいなどに関わらずだれもが遊べる公園が求められることを受け「第二次日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進計画」の中で、インクルーシブ遊具の設置とバリアフリー化を進めて行くことを決め、整備工事に取り組んでいくこととなった。 どんな人でも使いやすい公園づくりのため「だれもが遊べる児童遊具広場ワークショップ」を整備前に全3回行い整備内容を決定している。 		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、パネル、登はん系）、ブランコ（円盤型・バケット型）		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 日野市が直営で管理している。職員などは常駐していないが市役所が隣接しているため、利用者からの問い合わせ等は素早い対応が出来る。 整備後、ワークショップを2回行い公園の感想を聴取し、安全に遊んでもらうための注意喚起としてカラーコーンを設置するなど、改善に努めている。 		

■平面図



■ 主な遊具・施設



複合遊具

階段 1 段目は車いすからの移乗がしやすいデザインとなっており、その後の蹴上も低く設定されている。高さの異なるパネルは車いす利用者や幼児も利用しやすい配置となっている。



円盤型ブランコ、バケツ型ブランコ

円盤型ブランコは複数人（親子や体幹が弱い子どもと介助者等）と一緒に揺れを楽しむ。バケツ型ブランコは乳幼児や、体幹が弱い子どもが揺れを楽しむ。



説明板・仮設の注意喚起

説明板にはインクルーシブ遊具広場利用の趣旨や注意事項が記載されている。またカラーコーンに子どもたちが安全に遊ぶための注意事項を記載したピラを貼り注意喚起している。





外柵

広場側にロープ柵が設置されており、利用を制限させつつ、急な飛び出しに配慮している。



休憩スペース

縁台の脇は、どこからでも車いすが横付けできるスペース（幅 1.3m程度）が確保されている。



遊具広場へのアクセス

遊具広場まではコンクリート舗装のスロープ（2箇所）でアクセスする。園路幅は車いす同士が容易にすれ違えるW2.0mを確保している。

15) 武蔵野市立 中央高架下公園

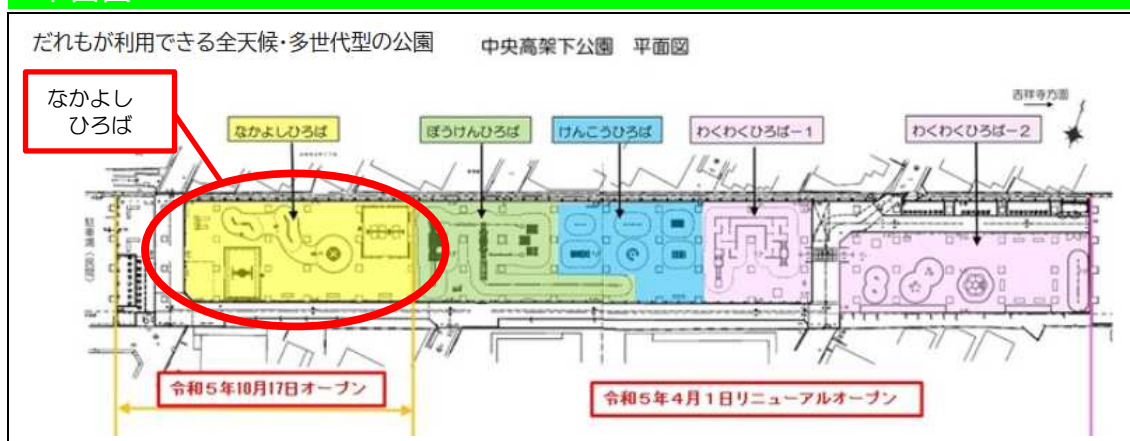


高架下という特殊な場所だが、利用形態に合わせて上手に区分して整備されている公園。

■施設概要

公園名	中央高架下公園	広場名	なかよしひろば
整備主体	武蔵野市	管理団体	直営（武蔵野市）
整備年次	令和5（2023）年10月	公園種別	都市公園
公園面積	約2800㎡（全体）	広場面積	約830㎡（図測）
開園時間等	常時開園（利用時間は9:00～17:00と限定されているが門扉は無く、閉鎖型ではない）		
整備の背景 整備概要 等	<ul style="list-style-type: none"> 市立公園として初めてユニバーサルデザイン遊具を設置した「だれもが利用できる全天候・多世代型の公園」として、子育てだけでなく障がい者や地域交流、高齢者の健康促進など多様なニーズに応える公園として整備されている。 多くのこどもたちがこの遊び場を共有することで、多様性を認め合い、人と人との繋がりが生まれる場所になることを目指し計画された。 		
主なUD 遊具 等	ブランコ（いす型ハーネス付、円盤型）、回転遊具、パネル遊具、迷路		
運営管理	武蔵野市が直営で管理している。職員などは常駐しておらず、利用時間はサインで9:00～17:00と制限している。		

■平面図



■ 主な遊具・施設



いす型ハーネス付きブランコ
標準型とともに体幹が弱いこどもも揺れを楽しめる。



円盤型ブランコ
複数人（親子や体幹が弱いこどもと介助者等）と一緒に揺れを楽しめる。



回転遊具
車いすからの移乗のしやすさを考慮して設計された回転遊具。体幹の弱いこどもも安心して足を延ばして座れる。



複数のパネル遊具
複数のパネルで触覚や視覚を刺激する遊びが楽しめる。



連続する遊び場内の「わくわくひろば」にある迷路遊び
「なかよしひろば」から少し離れた「わくわくひろば」内にある、多摩の木材（多摩産材）を使用した複合遊具と合体した迷路があり、この迷路では車いす利用者も一緒に遊べることをサインにて明記している。





説明板-1

広場出入口に設置されており、表面は広場の趣旨や注意事項が記載されており、裏面は「おはなしボード」になっていて、うまく言葉を伝えられない子どもがそのサインを使用して今どうしたいのか伝えるお手伝いをするサインとなっている。



説明板-2

各遊具にそれぞれ遊び方や注意事項の説明板が設置されている。



外柵

障がいの有無に限らず高架下のため通路飛び出しに配慮した柵（H0.9m）がある。利用制限はあるが閉鎖型ではない。



休憩スペース

縁台の脇は、車いすが横付けできるスペースが確保されている。



広場舗装

広場全体がゴムチップ舗装となっており、遊具際には順番待ち用の足跡のデザインがあり、並びやすい工夫をしている。



ベビーカー置場及び自転車置場

ベビーカー置場は広場内に、自転車置場は広場外に設置しており、安全に配慮した配置となっている。

